元気っ子　Ｎｏ304 ながさわ保育園

園　長　　中　瀬　弦　偉

先日、北欧の保育環境についてのセミナーを受講しました。北欧は福祉大国で、保育に対する考え方もかなり進んでいます。その中から日本の保育環境を考えようというものでした。今回はそういった保育環境の考え方について、世界の動向について考えてみたいと思います。

まず世界が関心を高めている ECEC についてです。これは「Early Childhood Education and Care」の略で、直訳すると「人生初期の教育と養護」という意味になります。このことが注目されるようになったのは 1990 年代以降、国際社会において様々な研究成果から乳幼児期の発達と教育がその後の人生の経験や生活の質に極めて重要な意味を持つことが分かってきて、（保育所保育指針にも示されています。）日本を含めた先進国を中心にこの ECEC と呼ばれる分野を政策的に推進してきました。

具体的には、これまでの 30 年の流れを OECD という国際機関が発信している報告書「Starting Strong」（人生の早期に力強い一歩を踏み出すことが効果を上げる）というものがあります。また、2000 年にノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ヘックマン氏も「就学前の時期の教育ほど投資効果が高い」と研究の中で発表しています。これらが示すのは、ECEC の重要性、特にホリスティックな教育の中で意欲や関心など目に見えない力である非認知能力を育てることが大切だということです。しかも、その中で育つ子どもたちの豊かさは、その国の経済に効果的だということも明らかにされました。

しかし、ここで気を付けなくてはいけないのは「早期教育ほど投資効果が高い」の真意です。一見、就学前の先取り教育を肯定するような意味に捉えられがちですが、ここの真意はこうです。「乳幼児がのびのびと過ごせる環境の確保と優れた保育人材の確保、そして乳幼児保育の質の向上ために、自治体などが管理する公的資金を保育や子育て支援に投資することがより効果的である」ということです。必ずしも親がたくさんお金をかけて乳幼児の子どもに習い事をさせることを肯定するものではないのです。

要は世界的にも 30 年くらい前から乳幼児教育の重要性や価値が高まっているということなのですが、その内容や方法は全く変わってきていて、過去に日本で盛んだったような、いわゆる「読み書きソロバン」を早い時期から始めることの効果は科学的にも否定され、その代わりに豊かな生活や遊び環境で子どもが主体的に活動し、学力調査や到達度テストでは数値化できない資質、つまり目に見えない精神的健康や根気強さ、注意深さ、意欲、自信などの力を身に付けることで将来に積極的な影響を及ぼすことが明らかになってきたということです。そして、これらの資質は人から教えられて身に付くものではなく、自分の経験や環境を通して身に付けていくものです。具体的には幼少期に大人からその思いに共感してもらい、気持ちを受け入れてもらう経験。そしてもう 1 つは没頭して遊び込む経験です。

これらのことは保育に携わる大人だけでなく、社会全体が意識をしていく必要があります。2021 年の小中生の不登校が 24 万人（2020 年からの増加率 24.9%）の時代です。一刻も早くこれらのことに真剣に向き合い、アクションを起こしていかないと大変な時代になりかねないと思います。